



「芯」・・・トウシグサの随の部分。(三省堂『新明解国語辞典』より抄)

トウシグサは和ろうそくの原料です。学校目標「しんの強い子ども」。花火のように華美ではないけれど、子どもたちの心の奥にある本気のともしび。その芯に火を灯す教育をみんなで進めていきましょう。

ICT活用は効果的ですか？

文科省では、ICTの効果的活用について、次のように示しています。

小学校算数科では、具体的な体験を伴う学習等を通じて、

児童に算数の論理を理解させることが大切であり、

教師の丁寧な指導のもとで **ICTを活用する場面を適切に選択すること。**

ICTは様々な学習手段の一つであり、全てのシーンに万能ではありません。

目的である「数学的に考える力の育成」には、ICT活用の場面を選ぶことが肝要です。



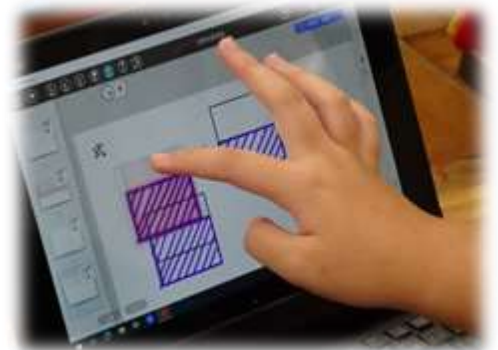
5の1 渡邊徹先生の「分数の大きさとたし算、ひき算（ $7/9$ ）」に学びましょう。

数学的な見方を働かせて、【単位分数に着目する】⇒【分母をそろえる必要に気づく】というプロセスを重視しています。なぜ「通分する」必要があるのか。子どもたちがそれに迫れるようICTを活用した、すばらしい授業です。

自力解決時に有効

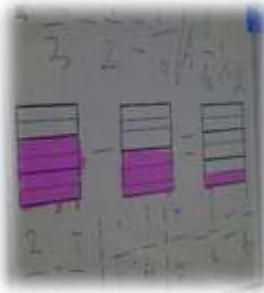
タブレット上で色を変えながら書き込むことで、子どもたちは思考を整理しながら自力解決することができました。

定規で線を引いたり、消しゴムで消したりすることなく、何度でも試行錯誤ができる。これもメリットですね！



学び合い時に有効

ここではメタモジで情報共有を図りました。一人の子どもの思考を、瞬時に全員が理解することができます。色を付けし、可視化が図れるのも効果的。また、全員の思考過程を比較できることもICTの利点。結果、単位となる大きさ（分数）にそろえる必要性に全員が帰着できました。



集団づくりにも

本時では、つまずきがあった子どもに、その原因はどこにあったのかもみんなで考えました。全員が一人の悩みを共有し、そして全員がアドバイスしてくれたことで、クラス全体が安心感に包まれました。ICTを効果的に活用することは、思考の共有に止まらず、人権意識の高揚にもつながるのですね。さすが児童指導主任。5校時と思えない集中力で、練習問題に次々と取り組む子どもたちの姿も、とても印象的でした。

